

週報

こひつじ

第40巻 26号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

愛は一切に勝つ

その二 愛には恐れがない

では、人はどのようにして愛を
 かい、手を合わせて祈った。それ
 学ぶのか。

そのためには、第一に、愛と対
 立するものを除かなければならな
 い。やらなかったことに気がついた。

愛の正反対は恐れである。恐れ
 があるかぎり、私たちの心に愛は
 ない。急に不安になった。たった一度忘
 れたことで何かよくないことが明
 日起こるのではないか。さんざん

聖書は言う。
 「愛には恐れがありません。全き
 愛は恐れを締め出します」

考えてみると、子どもの頃から、
 私のは恐れでいっぱいだった。

何が起るかわからない未来に不
 安を抱きながら生きていた。

だから寝る前には必ず神棚に向
 け、それは残忍な宿命に対する信仰で

ある」

と一九世紀のアメリカの詩人エ
 マソンは言ったが、私はまさに、
 子どもの頃から、その「残忍な宿
 命信仰」の熱心な信徒だったのだ。

しかし福音にふれて、自分の人
 生を支配するのが意地悪な運命や
 宿命ではなく、愛に満ちた神であ
 り、しかもその方が私のほんとう
 の父だと知って、私の心は大きな
 安堵感に包まれた。

人生にはいろいろなことがある
 けれど、何事も父のゆるしなしに
 は起こらない。

蔭くことも刈ることもしない空
 の鳥さえ天の父は養っておいでに
 なる。そんな父がわれわれ人間の
 ことを心配してくださらないはず
 はない。さらに神はご自分を愛す
 る者のためには、すべてを働かせ
 て益としてくださるだろう。

そう語る福音の言葉に、私はど
 んなに慰められたことか。

私はキリスト教に出会って、自
 分の人生が、ほんとうは愛に包ま
 れているということに気がつき始
 めた。

神は天にあり、

この世はすべてよし

神が天におられる。だから、す
 べてはだいじようぶ、と歌ったイ
 ギリスの詩人、ブラウニングの言
 葉を読んで、ほんとうにそうだと
 思うようになった。

人生が混沌として先が見えない
 と思われる時もあるだろう。しか
 し、地上は嵐でも、その雨雲を突
 き抜けると、そこには常にさんさ
 んと輝く太陽があるように、恐ろ
 しいと思われる出来事の上にも、
 それらをすべて善に導いておられ
 る静かな神のほほえみがある。

だから、

「だいじようぶ！」

これが慈愛に満ちた父を信ずる
 者の標語だと福音は語っているの
 である。

このように私の心から恐れを取
 り除いてくれたのは、神の愛だっ
 た。

人生のすべての問題を解決する
 のは、金銭ではない。知識ではな
 い。愛である。

そして聖書は言う。

「神は愛です」と。

「富は愛です」とは言わない。

「知識は愛です」とも、「人は愛です」とも言わない。

ただ「神は愛です」と言う。

愛は神にある。神こそは愛の源泉であり、そこから愛は溢れ出るのである。

したがって愛に生きたいと思うなら、神のもとにゆき、神の愛にひたるよりほかはない。

神から十分な愛を受け、それに満たされ、神のほか何もいらぬと言える人は強い。そのような魂からのみ、ほんとうの意味での他者への愛は生まれてくるのだろう。

（続）
つた今、妻のフアニーさんを天に送ったあとも、決して気落ちすることなく、一四、五の教会を巡回しながら、奉仕に励んでおられる様子を知ることができました。

○第一礼拝は午前一〇時から、
第二礼拝は午前一一時から。
○教会学校は午前一〇時から。
○説教は米村牧師。

今日の礼拝

○第一礼拝は午前一〇時から、
第二礼拝は午前一一時から。
○教会学校は午前一〇時から。
○説教は米村牧師。

報告・案内

先週の礼拝

○七月五日は、ガブレス（前田佳良子さん経営のセブンフーズの姉妹会社）都城農場落成式に米村牧師夫妻は出席し、祝福の祈り

岡隆夫さん。特別讚美は西岡なおみさん。説教はモーレンカンブさん。まことの礼拝とは何かについて。習慣に流されないで、神への情熱と憧れをもって礼拝は行なわれるべきではないかと語ってくさいました。

八月一八日の礼拝には関西聖書学院の舎監牧師富浦信幸さんが家族で来会。説教の予定。

モーレンカンブさん来会
孫のジャスタスさん夫妻に助けられ、今年八八歳になるモーレンカンブさん（オランダ在住）が八年ぶりに来日しました。

モーレンカンブさんは、宣教師として日本滞在中、神戸、姫路、大阪で伝道しましたが、なかでも姫路の広畑教会は成長し、今では関西有数の教会となっています。

そのほか、若い伝道者の育成にも力を注ぎました。
その後、香港に移り、ニュージーランドに本部をもつ宣教団体ワールドアウトリーチのために働き、オランダに帰国後は、母教会の牧師となり、それも何年前に後継者により、今では、関係する一五の教会を巡回しながら、礼拝説教をしています。

ぼくがモーレンカンブさんのもて、モーレンカンブさんは七月二日に帰国の途につきました。

○礼拝出席者は一〇一名（男三女六四）、それに子どもが六名。合計一〇七名でした。
○礼拝後のモーレンカンブさんとの交わり会には約四〇名が参加。質疑応答の時間では、八八歳になった今、妻のフアニーさんを天に送ったあとも、決して気落ちすることなく、一四、五の教会を巡回しながら、奉仕に励んでおられる様子を知ることができました。

○七月五日は、ガブレス（前田佳良子さん経営のセブンフーズの姉妹会社）都城農場落成式に米村牧師夫妻は出席し、祝福の祈り

きで、四年半ほどお世話になりました。モーレンカンブさんには大津教会とのかかわりもあります。大津教会の創立者であるチャック・ニコラスさんが、伝道地を求めて最初に九州に足を運んだとき、通訳の労をとったのはモーレンカンブさんです。家主であった矢島さんとの交渉もみなモーレンカンブさんの通訳によりました。それだけでなく、自分の働きの後継者として育てたぼくを、快く大津の働きのために送り出してくれたのです。

その後、ぼくは五〇年以上も大津の教会に仕えることになったわけですが、もしわずかでも、ぼくの働きが大津教会の益になったとすれば、それはモーレンカンブさんの心の広さによるものでもありません。

ぜひ、感謝の気持ちをお返しください。感謝の気持ちをお返しください。感謝の気持ちをお返しください。

○七月五日は、ガブレス（前田佳良子さん経営のセブンフーズの姉妹会社）都城農場落成式に米村牧師夫妻は出席し、祝福の祈り

とで訓練を受けたのは二一歳のとき、